

広報ひらつか

NO. 171 (1月号)

昭和41年1月15日 / 神奈川県平塚市役所発行 / 編集・総務部文書課 / 平電話 新編 168
 毎月15日 / 43,000部 / 全世帯配布 (1部5円) / 昭和31年10月3日第3種郵便物認可



八幡山に平和慰霊塔完成

人の和あらかわす100本の井げた
 平和の護持2400柱の霊に祈る

八幡山公園に建設中だった平塚市平和慰霊塔が、快晴の十二月二十七日十時、厳格な関係者など多数あつめて、しん工式を挙行した。

多数の市民の浄財をあめながら、三十八年以來、二年ぶりに完成をみた平和慰霊塔は、敷設二千四百餘柱の霊まつり、その功績を顕彰するものとして、また市民の平和への願いをあらわす塔として建設したもの。アゼラ式と呼ばれるのが国産の建築様式をアレンジした設計は、人の和を意味する日本のシンクローと井げたに積みあげた直線な構成で、その単純さ、美しさ、清閑・格調を求めています。

八幡山の森の静けさをつつと立つ塔の背後には、加藤市長の記した「平和慰霊塔の記」が次のように記されています。「明治以來幾たびかの戦争において尊い生命を捧げられた犠牲者の多量な慰霊、その哀怨を祈るために、ここに市民の浄財と市費をもつて、この慰霊塔を築した。おれわれは、塔の塔にあつたまの給ひて市民の静寂に心ゆく世界の平和を護持せんことを祈る。」

塔の高さは十九・八八、総費九百八十五万円、うち三十三千四百三十八千五百円が、市民の浄財でした。多数の市民の手でつくりだした塔に、市民が心をこめて、くつされ、伝承されていくべきものとする。

【写真】八幡山に完成した平和慰霊塔。遠景の建築物左側は見附台体育館、右側は市民センターと東京電力「市庁舎」がのぞく。

第4回生存者叙勲で 勲5等双光旭日章を授与された 平野勝二さん

政府はさきに第
 四回生存者叙勲
 七百八十五名の叙
 勲者発表、わが平
 塚からは野勝二
 さんが東下九十三
 名のなかのひとり
 として、勲五等双
 光旭日章を授与さ
 れた。位階勲等ハ
 く、社会的に自立
 たの功労者を引き
 らったという点からも市民として心
 ら敬慕をされた。三十八年五月の黄
 経堡を以てて各回の叙勲は、平野さ
 んの八十年におよぶ被爆に際した生
 のなかで、多岐にわたる被爆のひと
 こ手とも云えます。



平野勝二さん
 野勝二さんの叙勲は、今
 平野勝二さん
 野勝二さん
 野勝二さん

平野さんは岐阜県山奥の旧家に生
 まれた。祖家は志士の乱に大和国平野
 村から逃れてきた郷土と伝われ、十
 代にわたる家系のなかに社会正義の
 ために戦った人の
 名が多い。平野さ
 んはこうして皮膚
 の血をのいた平野
 家九代目の分家
 の、十二人兄弟
 男女の五男
 に生まれ、兄
 三男・増吉氏(衆
 議院議員、
 ・八十二才で死)その長男三郎氏
 元衆議院議員)兄(四男)五郎氏
 (元農林省十四才で死)末弟三郎氏
 (元農林省)など兄弟は海軍に
 入った。増吉氏は中央政界に剛直の
 政治家として鳴りた人で平野さんは
 この兄の感化を強く受けたとい
 う。生家は酒造を本業としたが、
 酒造はしづのまじい人、とくに
 母は仏心あつた兄弟たちが生業を
 暮らすほど憂鬱深く、い手も酒造の
 不振で「母性」といふのである。

本業にたつたのは五五年(五十年
 前)で増吉氏が丹沢御料林を私下
 したので、木を伐出し責任者として入
 山。六十二年四月、四十才のとき
 三女。弟の仕事は若く責任を専ら
 手れとて奔走して、八十一
 住所は平塚市平塚新三三二五
 (文・名倉信光・広報正二安)

今月の顔

今月8ページ

